

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)マックスバリュ平塚真田店	階数	地上2F
建設地	平塚市真田字車橋644-1番他3筆	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	150 人
気候区分		年間使用時間	5,650 時間/年
建物用途	物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年8月 予定	評価の実施日	2012年1月27日
敷地面積	4,183 m ²	作成者	株式会社プラスPM
建築面積	2,841 m ²	確認日	2012年2月1日
延床面積	5,332 m ²	確認者	株式会社プラスPM



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
参照値: 160 (kg-CO₂/年・m²)
建築物の取組み: 57%
上記+ 以外のオンサイト手法: 57%
上記+ オフサイト手法: 57%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9 音環境: 2.6, 温熱環境: 2.0, 光・視環境: 3.0, 空気質環境: 4.3	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4 機能性: 3.6, 耐用性・信頼性: 2.8, 対応性・更新性: 3.6	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.8 生物環境: 1.0, まちなみ・景観: 2.0, 地域性・アメニティ: 2.5
--	---	---

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.3 建物の熱負荷: 1.0, 自然エネルギー: 3.0, 設備システム効率化: 5.0, 効率的運用: 3.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2 水資源保護: 3.4, 非再生材料の使用削減: 3.4, 汚染物質回避: 2.7	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5 地球温暖化への配慮: 4.7, 地域環境への配慮: 3.0, 周辺環境への配慮: 3.0
---	---	--

3 設計上の配慮事項

総合	その他
都市基盤の整備改善と豊かな居住環境を形成する真田特定土地区画整理事業区域内に位置するため、建物高さを10m以下の2階建てに抑え、まちなみに圧迫感を与えない配慮をしている。また1階をピロティ駐車場としたり、バリアフリー仕様で整備し、周辺環境や来店者にやさしい施設となるよう考慮している。	0
Q1 室内環境 内装材にF を使用、喫煙室を設けることによって、室内空気質を健全に保っている。十分な換気計画を行い空気質の向上を図り、内部利用者の快適性配慮している。	Q2 サービス性能 居心地や快適性として、衛生上良好な状態を維持するために防汚性の高い仕上げを採用。又、内部の清掃環境を整備し、品質の高い状態の維持を図っている。
Q3 室外環境(敷地内) まちなみに対して圧迫感を与えぬよう、色彩や緑地の配置、規模に配慮している。	LR3 敷地外環境 雨水流出抑制対策、交通負荷、廃棄物処理、騒音等は条例を遵守している。必要駐車台数を満足するスペースの確保及び駐輪場を設け、代替交通手段として利用することにより渋滞の発生などの交通負荷を抑制することに努めている。
LR1 エネルギー 設備システムは出来る限り高効率化を図っている。	LR2 資源・マテリアル 節水コマ、節水型器具を採用し、水資源保護を図っている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたし